

令和7年松本市議会2月定例会  
市長閉会あいさつ

[7.3.17(月) PM1:30]

発言の機会をいただきましたので、閉会に当たり、ごあいさつを申し上げます。

議員の皆様には、28日間に及ぶ会期中、熱心にご審議を賜り、それぞれ原案どおり決定をいただきましたことに対し、厚く御礼を申し上げます。中でも、令和7年度一般会計予算をはじめとした予算議案を可決いただきましたので、第11次基本計画の集大成の年として、松本の未来をデザインする各種事業にスピード感をもって取り組んでまいります。

今月、3月8日は、国連による国際女性デーでした。そして、今年には国際女性デー制定から50年を迎えました。

男女平等に関する日本の現状に目を向けますと、世界経済フォーラムによる2024年の国別ジェンダーギャップ指数は、146か国中118位で、特に政治・経済分野において男女間に大きな不平等が生じているとの指摘を受けています。

市長に就任して以来、主要政策の1つにジェンダー平等社会の実現を掲げ、様々な制約からキャリアアップを阻まれてきた女性職員の登用を推進し、多様な視点や感性を市政の推進に生かすよう努めてまいりました。

ただいま伊佐治裕子氏の副市長選任の同意を受け、副市長が助役と呼ばれていた時代を含めて、松本市政史上初の女性副市長が誕生することとなりました。改めて、プロセスを含めて示された議会の趣旨を重く受け止めなければならないと、覚悟を新たにしております。あわせて、4月1日付けの人事異動で、目標としてきた女性の管理職比率30パーセント以上が実現することになります。

こうした体制の下、松本市は、市役所が牽引役となって職場や家庭におけるジェンダーバランスの改革を進め、性別による格差や固定的な役割分担のない、一人ひとりが自分らしく多様な生き方を選び取ることができるまちを目指してまいります。

来年度は、松本市役所の組織も、時代の要請に合わせた形にシンカさせていただきます。

現在、教育委員会にある博物館と文化財課を文化観光部に移管し、

文化観光政策に取り組む部局を一元化いたします。文化財や芸術作品を活用して市民や来訪者の皆様に楽しんでいただき、そこで得た浄財を文化財の維持・保全に再投資する。こうした好循環を通じて、松本市内に存在する歴史文化資源の価値を更に高めてまいります。

また、人口の社会増を維持し、拡大していくために、関係人口の増加を総合的にマネジメントする「移住交流推進室」を、総合戦略局内に設置します。移住・定住に関する総合的な政策にワンストップで対応するとともに、外国人の暮らしや仕事、短期留学の受入れ支援なども一体的に所管し、国内外からの「松本で暮らしたい」という願いに応えてまいります。

さらに、若者世代がまちづくりに主体的に参画することを目指して総合的に支援する「若者参画課」を新設いたします。学びや仕事、家庭や地域、それぞれ多様化・複雑化する若い世代の課題に向き合い、若者が社会や政治に積極的に参加できる環境を整えることで、若者が挑戦できるまち、挑戦する若者を応援するまちを作ってまいります。

先月末に、長く松本の若者文化のシンボルとなってきた松本パルコが、40年の歴史に幕を降ろしました。

閉店セレモニーの会場となった公園通りと花時計公園には、1,500人余りの人たちが集まり、「ありがとう」の言葉とともに、別れを告げました。パルコの関係者からは、「松本パルコは特別な存在だった。」という言葉をいただき、松本の文化度と市民力の高さを改めて実感したところであります。

今月末には井上百貨店の本店も営業を終了し、松本の中心市街地は大きな転機を迎えます。この状況を新たな賑わいと活力を生み出すチャンスと捉え、市民も企業も行政も、変化と再生に挑戦することが求められています。

既に、松本城三の丸エリアでは、既存の枠組みに捉われることのない「新たな主体」による賑わい創出の取組みが始まっています。来週「中心市街地再設計検討会議」から提言書を受け取った後、新年度設置する「中心市街地活性本部」を中心に、速やかに公民学連携の体制を構築し、松本駅から松本城にかけての中核エリアを再活性する政策にスピード感を持って取り組んでまいります。

松本市が新たな観光振興財源として導入を目指している、いわゆる宿泊税について、今月5日に検討委員会から、独自課税は一人1泊150円の定額制とし、免税点を6,000円とすることが望ましい、などとする提言書が提出されました。

昨年10月から宿泊事業者や観光関係団体などの代表からなる検討委員会で制度設計の議論を重ねていただき、松本市観光ビジョンに基づいて観光サービスの充実に充てることや、長野県と歩調を合わせて、来年6月からの導入を目指し、導入後3年間は経過措置として独自課税を100円とすることなどが盛り込まれました。

導入に当たっては、実際に税を負担する宿泊者はもちろん、現場で徴収を行う宿泊事業者の皆さんの理解が必要となります。提言内容を基に速やかに素案を作成した上で、宿泊事業者と意見交換を重ね、市民や議会からも広く意見を募り、今年9月の条例制定に向けて準備を進めてまいります。

さらに、来年度は、三ガク都・松本を国際文化観光都市として海外にPRするために、私自身が積極的に関係各国を訪問する予定です。

5月には、オーストラリアのシドニーで開かれる旅行博「スノートラベルエキスポ2025」に長野県・長野市・山ノ内町とともに参加します。標高の高さが生み出す優れた雪質のスキー場や長野県各地の食文化について、現地の政府機関や観光事業者に荻原長野市長らとトップセールスを行い、松本の文化と観光の魅力を直接お伝えしてまいります。

11月には、中国・河北省廊坊市との友好都市提携から30周年を記念して、廊坊市への公式訪問を予定しています。廊坊市は、日中戦争で両国の武力衝突が発生し、多くの犠牲を生んだ地でもあります。戦後80年という節目に、改めて過去の過ちと真摯に向き合い、平和への誓いを新たにするとともに、未来志向の関係構築に向けて現地で様々な交流活動を行ってまいります。

このほか、昨年6月に相互交流に向けた確認書を締結したドミニカ共和国に、中学生の野球チームと訪問する予定で、冬ごろを目途に最終的な日程調整を進めています。スポーツのみならず、文化や観光の分野においても具体的な連携を生み出せるよう準備を進めてまいります。

なお、12月定例会の冒頭で申し上げた、カトマンズのバレンドラ・シャー市長の来訪につきましては、このほど先方から、ネパールの国内事情に鑑み、春の来訪が難しい状況であるという連絡を受けました。こちらからは、いつでも歓迎する旨をお答えしており、若者の共感を集める新時代のリーダーを松本市にお迎えできるよう、引き続き調整をしてまいります。

最後に、3月をもって退職する職員、そして、コロナ禍の令和2年

10月から、未来を見据えた政治課題を担当していただいた宮之本副市長には、今日までの間、それぞれの立場で職務を全うし、市政運営に全力で取り組んでいただきました。この場をお借りして、私から深甚なる感謝の言葉を伝えたいと思います。長い間、本当にありがとうございました。

議員の皆様におかれましては、時節柄、健康に留意していただき、市政発展のために引き続き一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。2月定例会閉会に際してのあいさつといたします。  
ありがとうございました。

(以 上)